

企画展

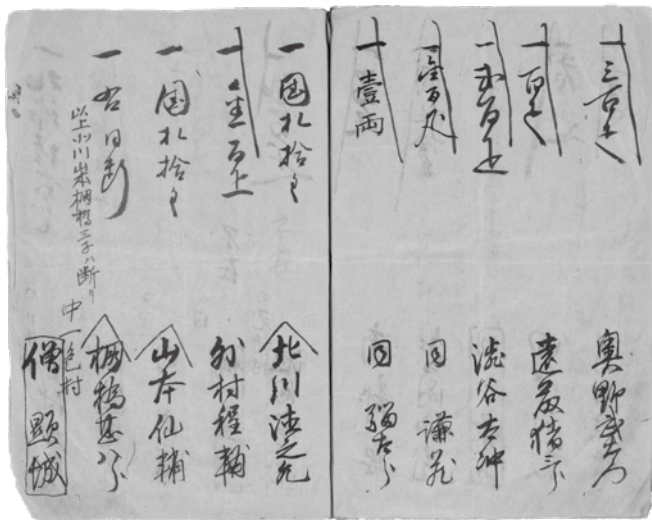
なかがわろくろう
中川 禄郎

— 井伊直弼を支えた儒学者 —

2021年
7/17(土)
8/17(火)

廻帖

当館蔵



中川禄郎（一七九六～一八五四）は彦根藩井伊家十二代直亮・十三代直弼に仕えた藩の儒学者です。安政二年（一八五五）九月、禄郎の門人たちは師の一周忌に改葬と墓碑の建設を計画しました。その費用を彼らで賄う際に作成したのが、この帳面です。ここには、禄郎を通じて直弼に資金援助を行った奥野武右衛門（写真右から一番目）をはじめ、直弼の死後、彦根藩の立て直しを中心的に担うことになる渋谷駒太郎（後の谷鉄臣）・北川徳之允・外村程輔（後に省吾）（写真右から五番目・六番目・七番目）らが門下として名を連ねています。激動の時代に、自身は藩主の側に仕え、死後はその門人たちが彦根を支えるという、禄郎の果たした役割の大きさが感じられる史料です。

展覧会
情報

テーマ展

”写し“

— 日本美術を読み解く —

キーワード

6月18日
7月14日

企画展

中川 禄郎

— 井伊直弼を支えた儒学者 —

7月17日
8月17日

テーマ展

茶道具の “い・ろ・は”

8月20日
9月15日

企画展

奇才の絵師 張月樵

— 彦根〜京〜名古屋への道 —

9月18日
10月18日



テーマ展

展示室1

6/18 (金) ～ 7/14 (水)

”写し“

— 日本美術を読み解く

キーワード

「写し」と聞くとコピー・偽物といったマイナスイメージを持つ方が多いかもしれませんが。しかし日本の美術において「写し」は、単なる記録にとどまらず、オリジナルの優れた作品の技を学び、伝え、さらには新たな作品を生み出す原動力ともなっています。



能面獅子口
友水庸久作

本展では、古面を精密に写した能面、名品を本歌として作られたやきもの、著名な作品をアレンジした絵画などの館蔵品を通して、さまざまな「写し」のあり方と特徴を紹介します。

◎スライドトーク◎

- 日時 6月19日(土) 14時～(30分程度)
- 講師 茨木恵美(当館学芸員)
- 会場 当館講堂
- 参加費 無料
- 定員 35名(先着順)

企画展

展示室1

7/17 (土) ～ 8/17 (火)

中川禄郎

— 井伊直弼を支えた儒学者 —

中川禄郎(一七九六～一八五四)は、井伊家十二代直亮に召し抱えられ、十三代直弼にも仕えた儒学者です。とりわけ直弼に対しては、藩主としての心得を説き、当時としては珍しく開国論を進言するなど大きな影響を与えました。また、門下からは谷鉄臣をはじめ、幕末維新期の彦根を支える人材を輩出しています。

本展では、禄郎自筆の書や古文書などから、その生涯と人物像に迫ります。



中川禄郎画像(部分)

◎スライドトーク◎

- 日時 7月17日(土) 14時～(30分程度)
 - 講師 北野智也(当館学芸員)
 - 会場 当館講堂
 - 参加費 無料
 - 定員 35名(先着順)
- *関連講演会を開催します。(4頁参照)

テーマ展

展示室1

8/20 (金) ～ 9/15 (水)

茶道具の”いろは“

※9/1は休館

抹茶をたてて客をもてなす茶の湯の文化は、室町時代に源流を持ち、江戸時代には、大名を中心に広まりました。長い歴史の中で、茶道具の種類は多彩を極め、その造形にも様々な工夫が凝らされることとなりました。

本展では、茶を入れて飲むための茶碗や湯を沸かすための釜、抹茶の粉を入れる茶入れなど、多岐にわたる茶道具のそれぞれの用途や造形的な魅力を分かりやすくご紹介いたします。



青磁刻花牡丹文花生



宮王肩衝茶入

◎スライドトーク◎

- 日時 8月21日(土) 14時～(30分程度)
- 講師 奥田晶子(当館学芸員)
- 会場 当館講堂
- 参加費 無料
- 定員 35名(先着順)

企画展

展示室1

9/18 (土) ～ 10/18 (月)

奇才の絵師 張月樵

— 彦根く京く 名古屋への道 —

張月樵(一七六五～一八三三)は、彦根城下出身で、同郷の市川君圭に学んだ後、京の四条派の祖、松村月契(呉春)の門に入りました。遊歴目的で長澤蘆雪と京を出て、途中で別れて名古屋入りしたとされ、当地の南画家、山田宮常に兄事しました。月樵画は、誇張や歪曲、単純化など、癖の強いものが多く、人気を博しました。晩年には尾張徳川家の御用もつとめています。本展は、実力派絵師として活躍しながらあまり知られなかった張月樵の生涯と画業を紹介するものです。



花鳥図(部分)
個人蔵

◎スライドトーク◎

- 日時 9月18日(土) 14時～(30分程度)
- 講師 高木文恵(当館学芸員)
- 会場 当館講堂
- 参加費 無料
- 定員 35名(先着順)

金亀玉鶴



彦根招魂社の創建

井伊家伝来古文書

(近代文書) 調査から

彦根城博物館では、この三月に、『井伊家伝来古文書(近代文書) 調査報告書』を刊行しました。彦根藩主井伊家には、江戸時代から昭和戦前期までの古文書が伝えられてきました。この内、明治四年(一八七二)以前の二七、八〇〇点は「彦根藩井伊家文書」として公開され、平成八年(一九九六)に国の重要文化財に指定されています。一方、明治五年以降の古文書一八、三〇六点が「井伊家伝来古文書(近代文書)」です(以下、「近代文書」)。一部の文書は、『新修彦根市史』編纂事業でも調査され、紹介されてきましたが、今回の報告書で「近代文書」の目録を掲載したことにより、その全容が初めて公開されました。

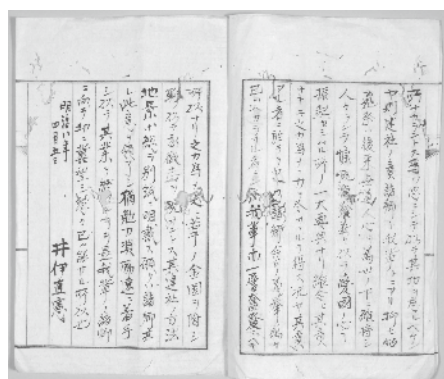
井伊家は、明治四年の廃藩置県以降、東京を本拠とし、彦根には、旧松原下屋敷(お浜御殿)を千松館と称し、二名程度の家職を中心に運営する家政機関を置きました。「近代文書」は、この千松館の組織運営に伴い作成され、あるいは收受され、蓄積された文書です。したがって、東京の井伊家本邸自体の文書は含ま

れず、明治時代以降の井伊家の全容を示すものではありません。しかし、千松館の運営や、千松館と東京本邸との関係、また、千松館を介しての井伊家と彦根地域との関わりや、明治以降の彦根および旧藩領の周辺地域の中で井伊家が果たした役割を知ることができ、明治時代以降の彦根の地域の歴史を理解していくうえで不可欠な資料であることは間違いありません。

ここでは、彦根招魂社創建に関する文書を例にとりて見てみましょう。明治二年九月、旧彦根藩主井伊直憲は、戊辰戦争での彦根藩戦死者を弔うために、古沢村石ヶ崎(現彦根市古沢町)に招魂碑を建立しました。その後、旧城下の尾末町に招魂社を建てることを決め、同八年に招魂社創建のための寄附を呼びかけました(『新修彦根市史』)。招魂社はのちの護国神社です。この時の井伊直憲による趣意書が「近代文書」の内に伝わっています(写真)。

直憲は、趣意書の冒頭で、「戊辰以来旧藩士民ノ戦死ヲ弔ハシムルニ、石ヶ崎ニ建置スル所ノ招魂碑ヲ更ニ社ニ改造」することを自身が出願した所、「有功諸郷」すなわち戊辰戦争で功績のあった旧藩領の諸村が協議し、城に近い便利な地に神社を造営し、その費用の一部を負担することを議事としたと聞き大変喜んでいと述べています。その上で、招魂社の創設に広く「諸郷」が協力することを

呼びかけています。ここで注目したいことは、招魂碑と招魂社の目的として、戦死した「旧藩士民」、すなわち藩士だけでなく、従軍して戦死した領民の弔いを含めている点です。従来、招魂社は旧彦根藩士の戦死者の慰霊の場として注目されてきましたが、旧領民を含めた地域社会との関わりも含め、その位置付けを考える必要があることを示唆しています。「近代文書」には、井伊家のことに限らない多彩な資料が含まれています。ここにはまだ発掘されていない多くの史実が眠っているのです。(渡辺恒一)



招魂社建立趣意書

※『井伊家伝来古文書(近代文書) 調査報告書』(一)～(三)は、非売品ですが、滋賀県内の各自治体図書館と各都道府県立図書館に配布しています。内容に関心をもたれた方は、これらの場所をご覧ください。

催し

◎ 第54回彦根城能 ◎

■開催日時・場所
9月19日(日) 16時開演 (15時30分開場)
当館能舞台

■演目

【お話】「人間愁ひの花盛り」村上 湛
観世流独吟「近江八景」浅井 文義
大蔵流狂言「棒縛」茂山 千五郎
観世流 能「隅田川」大槻 文藏(人間国宝)

■チケット

全席指定

A席(正面席) 6千円

B席(脇正面席) 5千500円

◎先行販売 7月5日(月)～11日(日)

当館受付または電話申込み(発売初日は、館内販売9時)電話予約10時)

◎一般販売 7月19日(月)

チケットぴあ、ローソンチケット、KEN SYOチケットサービス

※9月16日(木)以降、残席がある場合は、当館(受付・電話)にて販売します。

■能鑑賞の第一歩!

◎ お能の国のクラシック ◎

■開催日時・場所

9月19日(日) 13時開演 (12時30分開場)

■当館能舞台

■内容

幸流小鼓方の成田達志をナビゲーターに、コンサート形式ではじめての方でもお楽しみいただける能楽を紹介。

■申込み

入場無料・全席自由

7月5日(月)～定員に達し次第、受付終了

当館受付または電話申込み(申込み初日は、館内受付9時)電話申込み10時)

※内容・出演者等は、都合により、やむなく変更することがございますので、ご了承ください。

*未就学児の方はご入場いただけません。

スケジュール 6月～9月

9月	8月	7月	6月
<p>25 土 奇才の絵師 張月樵 お能の国のクラシック 古文書のみかた③</p> <p>19 日 奇才の絵師 張月樵 —彦根～京～名古屋への道— 第54回彦根城能 お能の国のクラシック</p> <p>18 土 スライドトーク 奇才の絵師 張月樵 —彦根～京～名古屋への道—</p> <p>11 土 教習 古文書のみかた②</p> <p>1 水 休館</p>	<p>28 土 教習 古文書のみかた①</p> <p>21 土 スライドトーク 茶道具の「い・ろ・は」</p> <p>18 水 休館</p> <p>1 日 教習 キッズサマースクール</p>	<p>31 土 講義 「井伊直弼を支えた儒学者 中川禄郎の人と学問」</p> <p>17 土 スライドトーク 中川禄郎 —井伊直弼を支えた儒学者—</p> <p>3 土 講義 私の研究最前線「湖東焼研究の 一級資料 関東大震災罹災品」</p>	<p>19 土 スライドトーク “写し”—日本美術を読み解くキーワード—</p> <p>16 水 休館</p> <p>8 火 休館</p> <p>5 土 講義 私の研究最前線「伝承のなかの戦国 —古城図・合戦記から見る 近世の戦国観—」</p>
<p>テーマ展 奇才の絵師 張月樵 —彦根～京～名古屋への道— 9/18～10/18</p> <p>9/16・17 展示替により一部休室</p>	<p>テーマ展 茶道具の “い・ろ・は” 8/20～9/15</p> <p>8/17、19 展示替により一部休室</p>	<p>企画展 中川禄郎 —井伊直弼を支えた儒学者— 7/17～8/17</p> <p>7/15・16 展示替により一部休室</p>	<p>テーマ展 “写し” —日本美術を読み解くキーワード— 6/18～7/14</p> <p>6/15、17 展示替により一部休室</p>
常設展示 “ほんもの” との出会い			

*「古文書のみかた」は事前申込制です。

募集

令和3年度「古文書のみかた」

古文書解読を基礎から学ぶ教室「古文書のみかた」の受講生を募集します。

■開講日時 8月28日、9月11日、25日、10月9日、16日、30日（全6回、いずれも土曜日の14～16時）

■場所 当館講堂

■講師 当館学芸員

■定員 30名（応募者多数の場合は抽選）

■資料代 500円

■申込み方法 ①②いずれかの方法で申込み。
①博物館ホームページ申込みフォーム
②往復はがき 往復はがき往信の裏面に住所・氏名・電話番号を、復信の宛名面に住所・氏名を明記の上、当館学芸員課「古文書のみかた」係に郵送（一人一通）。

■申込み期間 6月1日（火）～30日（水）
当日消印有効

キッズサマースクール「和紙を使った昔ながらのノートをつくる」

和綴じという日本の伝統的な本のつくりかたを学び、和紙を使ってオリジナルのノートを作ります。

■開催日時 8月1日（日）
1～3年生…13時30分～15時30分
4～6年生…10時～12時

■場所 当館講堂、展示室

■講師 当館学芸員

■参加費 500円（保険料・材料代）

■定員 1～3年生、4～6年生…各20名（応募者多数の場合は抽選）

■対象 原則として彦根市、米原市、愛荘町、甲良町、多賀町、豊郷町に在住もしくは在学する小学生

■申込み方法 ①②いずれかの方法で申込み。
①博物館ホームページ申込みフォーム
②各小學校に配布するチラシに印刷した申込用紙に必要事項を記入し、博物館に持参もしくは郵送

■申込み期間 6月1日（火）～25日（金）、当日消印有効

講座・講演会

■日時・演題・講師
①6月5日（土）14時～15時30分
私の研究最前線「伝承のなかの戦国
—古城図・合戦記から見る近世の戦国観—」
蔭山兼治（当館学芸員）

②7月3日（土）14時～15時30分
私の研究最前線「湖東焼研究の一級資料
関東大震災罹災品」
奥田晶子（当館学芸員）

③7月31日（土）14時～15時30分
企画展「中川禄郎」関連講演会
「井伊直弼を支えた儒学者 中川禄郎の
人と学問」
北野智也（当館学芸員）

■場所 当館講堂

■定員 各35名

■資料代 各100円（但し、彦根市内在住の中学生以下は無料）

■受付 当日受付（先着順、受付開始13時30分）

現在、開催を予定している展示・講座等は、新型コロナウイルス感染症の拡大の状況により、中止となる場合があります。最新の情報は、彦根市や当館のホームページ、フェイスブック等でご確認ください。



彦根城を世界遺産に
彦根城はユネスコの世界遺産暫定リストに登録されており、世界遺産をめざしています。

編集・発行
彦根城博物館

〒522-0061 滋賀県彦根市金亀町1番1号
TEL 0749(22)6100 FAX 0749(22)6520
https://hikone-castle-museum.jp/



この印刷物は6000部作成し、印刷単価は約12円です。